KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

伊地知文庫
文庫20
403
3

源氏小鏡

○一桐壺　○二帚木　○三空蟬　○四夕顔　○五若紫　○六末摘花　○七紅葉賀　○八花宴　○九葵　○十賢木

伊地知氏書册

文庫
403
3

伊地知氏書冊

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]二人の姫君を[illegible]
[illegible]ひとりもてなしかしづき給ふ事
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]事ばの中ばすてがりくるる
[illegible]姫君をいかでと家々に申す人
[illegible]秋ばまして心ぼそくふかき思ひの外に
[illegible]て家の内をすさましくやかまましきまで
[illegible]風のまどひやうふかきさまにて何と
[illegible]くかなしくおぼしたる

[illegible]風なれば[illegible]やうもあるべきにあらず
[illegible]ものをすさまじくかなしくおぼしたる
[illegible]ばかりの姫君の琴をいとうるはしく
[illegible]の姫君ばかりもきこえよとおぼしたる
[illegible]ばかりにて[illegible]

[illegible]ばかりにて[illegible]
[illegible]ばかりにて[illegible]
[illegible]ばかりにて[illegible]

たまくしげ

て海さくりにあるとかの風流ものたちて扇の
そのうち月らまの〇〇海のうらのこの海いとこ一人の琴
の上にかゝりあるうち入日なまかくとそこの海てまもとて
うちまもしるとなりのかたさとそこひとつ家たくく
うつくしきもしかしたいとうの家なたま法八月廿九の夜也
元旦祝扇をそのかたの海をくれるもの梅
あるものなりのうち治といふ事まこの里のまつの住
ひとりのもの者あるまの〇〇このあの人うつくしけるのあの人
さらの上にくくいるとたくくるもいとうかたるの
かりうちはるうち治へれのうち附治ひ也

巳奥八列のうしろまきつき付さうり巳と推下よりくあり

推下よりくあり

ねとも右の海結の乳母世れたうつて板西の四ヵ国住
乃ほ母ものうしろ長のうりうけ家よ
者ものの住ものうち方まうこの祇さうりの也梅巳文
高巳弁此者巳事おの中ある也ひて対面もこ
ゆかいうもとうさうかたとあつれなよりれなうあ
巳弁の者ものを按まそうもくくこの大屋の者
いまのうちふかりて巳文たて海つれて治ひとて
うりもてううみなかの唐の海縁綾まそあふあ
袋中よ巳事此事九六ものあかのあうき
うみあいうん世まもうへきと思ひまを道たてま
はううまこ〇さとそこまつうあ月治へ

一付たり山伏たちし大納言殿の御乳母の
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]あとにふるものとなりて
[illegible]

○二 雅下 [illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
如三のゝ[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

て信ずさせあまへとてのぶくゝ袋みおきあ
大和まるを信元くなくゆりかやうの事
字治まて関ノ方ハ[illegible]めるといふやうに句を付
四ノ字治の巻ハ[illegible]ふるいと事也
誹ハ元定橋本の右衛門結ものゝ[illegible]大納言
て桜ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
まのりて字治ハ姫元重[illegible]
姫元重ハ母文[illegible]
事大和よりまるゆ[illegible]
ハ橋姫ハ[illegible]

○三紙用　いまハ[illegible]事大和の方ハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四方より毎日もてきたりて来る楽しきのつもる
世作りてあそび海に交いあそびの出るを中
間とりのこるものやせきの梅をもくのつれて
あるもんもうの功たものりて方ようもいたち
せ給へとのうの海に出の花人たまきの次たちの間ち
給ひ毎朱式のとの紀とのたちの世の事ニ世
みをうけかとしかなまの間ようの文の出使とて
かんちめ長の大史るとの知てかろうしく
出ありの文人をくるのあて世のなりまの海
かとあまはとうつくてむるくうり

給ひ給方も海の方しきこと松ていてとて
るくかの文をうんの梅をみるを
紀得とまこの志りたりてむるくうま
はまこふたん方ま
こをあり久し我もあ
海とあるくあ○長れ紀ん久出の見
よくかて大臣たり
面方とたり見て
くをつひまこと給の海年廿六すてくれ世
給大右限りまく四る

[illegible]

○四月廿日　じまき紀さうひと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そ物がらの花紙にて扇のようなるものを出して
扇のめしをよろこびて行くよ
月にてをみなへしの白露の玉ちる花物語
と讀りしも物がら扇のようなるものをたら
ひのうへにうかべるをいとをかしく
思ひしかどもいとうるさくて
のまれまじとこそ思ひしかども
とりもてやつのしもとめはしに
のをさいはしに乗るとて
小のうへにうかべるはうちくの文なり
とりもてやつのしもとめはしに乗るとの
のをさいはしに乗るとて文なりしを
小のうへにうかべるはうちくの文なり

頃ものがたりの文なりか
をもやうしに文をかきてあり
次ぎに百てらしとこそ
ものがたりの記姫君うんちなりて
母をかしかつきを
はこしもものがたりとしも記なるもめくなる
はしらめをもとに年月をあらそひ
ふをもかなふかしてをの文言の内をもとに
ひとりてかくとかもを
をもりて百あて古方先の
仰られ夫はなきと思ふ所の奇よ

月人のかたちにかくれぬるをみて
とまりあそびにかのみるとこいふかよ付て
又ある年のあき中ぬの月のうとくかくれぬるうらみて
うもれくしかの字治へ清水寺の坂のひしり
し國へくりけるをとしはもつしれもりてかり
いとりすてをひとりて又ひとりのこりぬんち
そて京のりのつまさきなりてのりをふ
うとくの家もあけまれの月もうせなふをよ
中の月の音へ入りなしひとりなりひとつて
月おかなをもとしもるを物をはたらてこの姫君を
乃家にあるうて泣うりしぬんくるあるん
きしれ姫をもとの人のるをは
字治へおつうしれさし姫君をつせへ入りて
字治中をとりあるかの弁ぬんめをとるへ
きなりあれやとりて物をうすをたねあを
君の宿をあるそのをきこあるへ姫君あを
いくれくこの小の方のもくをまりをし
四そつをせをつ物をひてはありあを
人のるをそあつまをとを海をもしひるし
ゆん君とをとこ中これくへ字治乃中やとりつせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○七月廿日　しまねうさ[illegible]

乃介ゟ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まてうちうけていれ
うつくしけこ松をうゑて
ゐるを松をうゑて
ゐるを松をうゑて
ゐるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きのかなのとあり友きの客しきこしくつりて
ひすむ宇佐八幡やうの宮殿八こしくみ木
すゑとりそみゆるこ山かみはけらやうよきく
れと夕日のやまむこの道のりの花
はあつれわくこつ面のれの行りは家み
三月廿日のゆうこうけて来あて面ふ松いまよ流
行ゆきれりつまたためゆふつりの見八書
ちちちれわれ時に見れそれくこすく
あうち志つまりゆすふを志れまく行ようる行きふ
やうゆて八こうしこよるくゆてつけるこん面

とうしてあつれを面くれ面ついも比
八夕はこしまりもまちちくゆ面る
あゆ三面れこふ宮殿つゆ
つ女房あれし奉ふ宮八寺面ふ
奉すき見ゆてこれを前ふ
ゆこ面こ山八屋こつ行ちひら
れゆし行ふこ奉ゆて見ふゆこれゆ
ふ宮ゆれ八人面こひとゆ行ふゆ
ゆ面八ふちしてこよるれなくきゆを世
ここと奉ゆて面ふゆ八ゆひみゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如房ふうかなつまかまをあくまをうて
うまかくてすきうまなるをのかるさこやとおく
ちくしをこてうをかしかわのもるしをすめを我方
のを犯ためちしなてうををきうをきて人に初方
面を書をとをれ　めけ行方をちくを地を
かくふをめくをちくをるををんくをあしを
面をれつ　れをすて邪をて我をつしをゆけ
ひをさへくをうを面ををくをこれ　者を河
海をふくをくをていくをを行をくをを行て行
ををひをくをくををんのくをのりを

於くり絵小野の面をつをより下の面を平坂の花
へくり谷を名つけて小坂へつををりて行て面く
かちをとををてをくりてをををあまを　くをし
宮法華寺とをつを付へ　又を寺を法華寺
を寺をけをを行をくをを小野の川をを和り
いをのを氏伊都　の面をを尾谷をを人をを
初瀬へ面をを彩をを　面ををくをを二月を
めの事ををしをこの乃ゆをを面を行を坂尾
乃面へ宮法をを面り伊勢を初瀬へ行をり
ををるををの伊都　の同宿をん法師をを

一こあるとき物の名をみて
ひろまちの名所なるを大和の国の川なるをみて
ものしりの人に何のやとえるを女とかくして
死なんを又いきこうらうもんしてゆめやしく
かりしを信濃路より信濃路を
見給ひて四とみやこしたれば小野の尾崎を
つゝ見行て又名をみ歌をそへあるを
ゆくもかりしを女をとあてかすを十二ひらをきう
ゆるを海をとくてをよこかうとをよりなれを
あのもをまんをとてくれかうきの下を

ゝ我を川水のうちへかすをみのたまひて
又物をのうまの小野の山の雲をみて
ゆくへをしらぬ物の気をまして行ます
ひろまちの人の歌をしてよれる
のゝ人ゝ歌のうちをはすれをなをひて
ゝ人ゝ歌をかうし給ひ人ゝ歌をう
せをとりをとゝ歌をのうまの小野
をとゝ付をのうまの小野をうゝ
ゝ歌をのうまの小野をうゝ
ゝ歌をのうまの小野をうゝ
ゝ歌をのうまの小野をうゝ

あつめて傍輩よりもあとにはせすてらいや
してかへるべきなり
吉川の松のもとにて称名あり人よりそれらる
はてさぬ　やうもやうして格基
なとめ出家と行向ひてとはるとさせ給ふ
ともなるなり

○八　蛙蛙　はまれけりといふは海辺弘
おくうせてあるかの
有とみて歩はとおくしれとも
はて清涼寺かはたなるあさ
はて清涼寺ひ　ゆへより物
めとまるかくかしうの四人のうちにて
人間をあさめくて海をさらに海をてく
とうとて蛙うりめつて馬色野　みをとり行水
野蛙とるもの　やたれも字治へ行て居ぬ
せん方なし　はあと祈んとうるひ給完
神やうりけんなるとみるひやや
けりなのあとかさるれ形のあときて　あり
すぬりとうすれと付て　ものもひさす
されるけむぬ　ものませ身行程とひ
ぬとうめ生りきてれとうり給ひ　ぬ格の

文乃四方へ乃ゝ巻ゝ三ゝ和くかゝみよ乃ゝ
しゝかゝり

手習　しまゝ紀てゝるゝひとゝゝ海ゝ小野
乃尾ゝ巻ゝ礼ゝ小野みゝ伯ゝ乃ゝ世ゝ
しまゝてゝゝ乃ゝ飛ゝ口ゝ乃ゝ世ゝ小野
世ゝ事ゝ世ゝゝ乃ゝ世ゝ礼ゝゝゝ乃ゝ世ゝ
して双ゝ乃ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
なゝ袖ゝ巻ゝゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
小野ゝ尾ゝ礼ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ

尾ゝ見ゝゝゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
めゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
袖ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
尾ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
みゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ
海ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ乃ゝ世ゝ

つるみやうらの浦こたかうの
小野へとうて海辺をのみ見てゐて
やがかりのみるといひつるなりと紀ゆき
はしきつるかとうたせ給ふ尼又とうせい家うの
とうひつるとまうしつるめ[illegible]
いるゝ所うちかたらひて[illegible]
都まうさしとおもへ
ものひとりとうしてあ
ぬすれとあ[illegible]
のうちのかとうの
のうちのあ[illegible]
のうちのあ[illegible]
のうちのあ[illegible]

[illegible]

又月かりの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]初のやとをあらため家を浮はすと
[illegible]ゆめ[illegible]ものの[illegible]ゆめ[illegible]ものの[illegible]
[illegible]ものの[illegible]ものの[illegible]
[illegible]ものの[illegible]ものの[illegible]
[illegible]ものの

はこの物語の菊こそ物語人作りて[illegible]
[illegible]のちの作り作り[illegible]
五十四帖のかの紫のゆかりの[illegible]

源氏小説字治之巻終

御文花大納言為右卿所持[illegible]年[illegible]校書早

一　女ハ　秋こそ心の中[illegible]
一　こめハ　[illegible]
一　公ハ　[illegible]
一　[illegible]ハ　[illegible]
一　四季ハ　[illegible]
一　うこハ　今ハそりこ心[illegible]
[illegible]
一　ことハ　公清[illegible]
行平の[illegible]
[illegible]

一 とのゐの所 六条院にきこえたまふ所
一 めでたきの あまたひめきみ帝は年ごろ
ひとりの上 車ゆるしあるべきこと
一 うれしきの 十月ばかりつかうまつりけるとつぼせて
うゑんの舞 青海波の舞
一 見るきの 紅葉の賀 光源氏 青海波の舞
一 なりきの こゑゐんに及ぶまで 舞ひて 源氏の中将
一 ゑんの宴 ゑんの宴 紅梅 六条院 右衛門督 内
きこえたり 右大臣 ひとり
一 宴の明きの 宴の上 上達部 殿上人 御
て 車 みのりの ふるまひ 毎日 舞 ひとり
一 ふるきの ふるまひ やきりんめのと
一 公賀 公賀 あるきこのんの 第四十 月 九
ふれりの
一 ものとの 三月 ぬいてたらりんめのやうす
夏 五月 あよめんこそ まつる
一 あるぬかきの 六条院 内侍 内侍 内侍 殿上
みやたてまつる
一 うけられぬ事 源内侍 ものの ものより

一 [illegible]の中のつゝ[illegible]
[illegible]かりうたるもの[illegible]
一 いつゝゝの [illegible]
たてまつりて[illegible]
一 かのゝゝの [illegible]
れよこれゝゝめ[illegible]
れゝの間

一 あわれなるゝ 源氏[illegible]の書[illegible]
[illegible]
[illegible]

れゝの間

一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]

十四 落雲は香の書秋のあるひとりのあり源氏秋
妙の中家のいにかたそのの筆作也りつゝ書秋と
このこゝろ国ゐい書秋ゆこのむ書と女御あて
たりし一時書秋ひまとゝひ毎ゝ秋ゐ
ゆゝしうして秋姫とゝゝ文て古家のゝ書ゐ
ゐゝ書ゆあれひ於こハ秋ゆあれ
妙人代源ゆのゝ文ゝ雲雖は春ゝ物ゝ人
ゝ源ゝ書ゝ

△写本奥書

右此本三井寺聖護院御秘蔵也仍月次
連歌之日其外御留寺之源御本
盗出二三年書之於京都御所
一本山名殿一本赤松殿一本於
其外者不可有秘々中々
極秘不可有他見者也 定賢